

No. 47

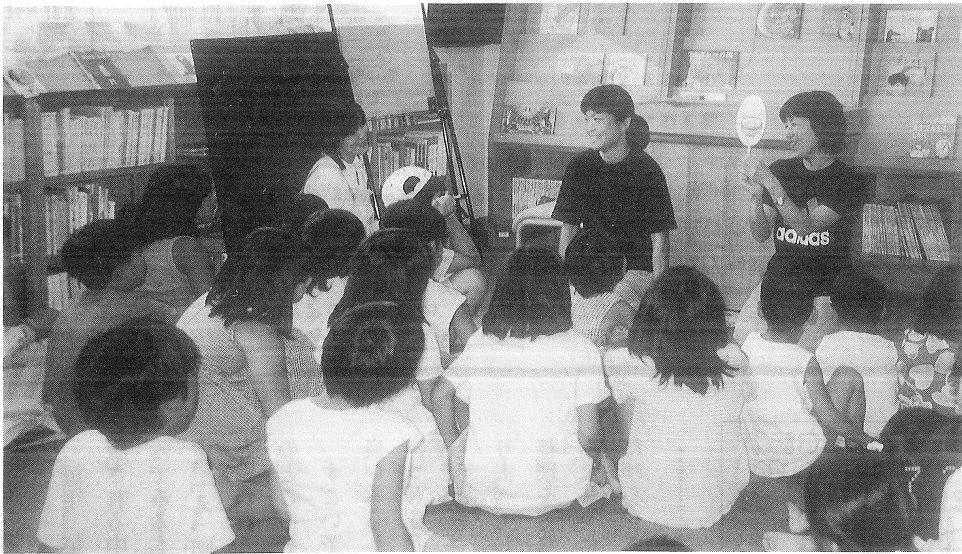
2001年9月1日発行

宇治市中央図書館
〒611-0023 宇治市折居台1-1
0774 (20) 1511

宇治市東宇治図書館
〒611-0011 宇治市五ヶ庄三番割36-5
0774 (32) 2232

宇治市西宇治図書館
〒611-0042 宇治市小倉町山際63-1
西小倉地域福祉センター3階
0774 (22) 8240

と し ょ か ん 宇 治



「おはなし会」
(西宇治図書館)

『おはなしたまてばこ』

サークル「おはなしたまてばこ」
会員 阿部 順子

『おはなしたまてばこ』は今年で発足十三年目になります。図書館サークルとして発足した当初は八名だったメンバーも二十名近くになりました。発足当初、『ストーリーテリング』って何？と聞かれることがしばしばで、まずは『ストーリーテリング』がどんなものなのかを知ってもらおうと始めた《大人のたのめのおはなし会》。年一回、秋に開いていたのを、秋はメンバーによるおはなし会、春は他サークルの方によるおはなし会と、年二回開くようになり、この春には十五回を数えるまでになりました。最近では、『ストーリーテリング』もだいぶん認知されるようになってきたのではないのでしょうか。

《大人のたのめのおはなし会》の他、中央・東・西宇治図書館でのおはなし会、黄檗病院、小倉デイサービスでのおはなしの会も続けてきましたが、二年程前から、メンバーの念願だった小学校からのおはなし会の依頼件数が増え、今年七月現在、五校、一園、年長さんから六年生まで五十一クラスにお話を届けています。

『ロウソクがついている間、この教室はおはなしの部屋になります。』とロウソクに灯をともし、おはなしを始めるのですが、子供の視線が語り手を通り越して後ろの方に結ばれ、その想像力の翼で翔んでいる時の表情。また、『お話なんて……』とハスに構えていた高学年の腕白そうな男の子が思わず聞き込んだ後に見せるちょっと間の悪そうな顔。そんな子供の様々な反応に、語り手自身が気付いてなかったそのおはなしのおもしろさに改めて気づかされることもあります。

月に一回、定期的なおはなし会をしていくことで、『あの子たちにこのおはなしを聴いてもらいたい』と新しいおはなしをおぼえる励みにもなっています。おはなしを聞くことで想像力を培った子供達は、文字から自分なりの絵を興す力もついているはず。子供達が、聞いた国のお話や、作者に興味を持ち、その他にどんなお話があるのかと図書館をのぞいてくれるようになるとうれしいのですが……。

いよいよなかなか
古本もハードカバーが
できる! 興奮!

4ヶ月もまて、かきたのに
ダマシまがもっていた

『秘密』を読んでから大ファン
また切なくなっちゃうワ

や、は、
外国ものでしょー

まてました!
第2弾

ミセス M子の
本よみすろく

子ども達のごはんづくりには
あわれた夏休みもあわり
さあ 本をよむぞ!!

ストップ

『ス』は
ビーンへ
消えた!

うすいので 油断していたら、
あと1周間に3週間
一回休み

片想い
東野圭吾

停電の夜
シバハロ
ラベリ

金瓶梅
野村胡堂

や、1200年代ものでしょー

『ロ』の物語
樋野大祐

や、は、
大塚千代も まだつづいてるん
でしょー (途中のマンガの3つとも)

1つすすむ

模倣(倣)作
宮部みゆき

や、は、きたきた
うれしな

『天』の
階段

おしいちんがニマニマ笑
言いました。
「あしてヒゲを教えておくれ」
???

『中』の公平
事件簿
いんげんの
あにがて

京着のうていうだけで
発見しめかわくワ。
シユリーも 清水至も 京都人♡

『い』や、まいた --
『仕事のできる人、できる人』と
『金持ち父さん、貧乏父さん』が
いらんに順着がきた。
深い意味はないけど、カバー
かけて、はやく読んで進ませ
ろっすすむ

映画も原作も、大からたわ
シユリエット・ピノノって、
わたしと同じようにかかっ
てた

キツクリ勝になっちゃった!
治ったら、図書館に
腰痛の本もかりに行ニ(?)
2回休み

『月』の謎子 冒険ファンタジー
「ハリー・ポッター」シリーズ
第3作も 楽しめウワ

ライブラーXの読書日記⑦
Produced by (X)

～図書館 DE デートの巻～

ん、じゃ
3:30に図書館
の前でね。
バイバイ。

今日は憧れの
ライ子ちゃんと
デート
おめかししなく
ね!

ライ子ちゃん
狩りかじや
狩りか?

遅く答。

そして2人は...
映画ならぬおはなし会
へ。と、おはなしのてあつた

おはなし

*各館ではおはなし会を開催して

図書館員の

ひとりごと

毎年、毎年、たくさんの書物が出
版される中で、実際に手にとって読
んでみるものは、ほんのひと握り
です。「えっ図書館で働いていながら？」
と思われるかもしれませんが、本当
のところそうです。

すごい予約人数の本とか、とても
良い本らしいとか、本を巡る情報は
いつも身近にありながら、いつか読
もうと思っっているうちに、月日は走
り去ってしまいます。図書館の書架
整理をしながら、「ああ、これも読
みたかった本だなあ...。」と、一瞬
だけ心をとめて、また通り過ぎてい

きます。

そんな日々の中でも、なにか縁が
あって、借りて読んでみた一冊が、
ものすごく心に残るものだったりし
たら、とても幸せな気持ちになりま
す。(中には相性が良くなくて、数頁
しか読まずに返却することもありま
すが。)何となく、日頃胸の中に溜
まっていることが、すっと溶けたり、
あるいは、考え方や、人生まで変わ
るような(そこまで言うとはげさで
しょうか)本があるかもしれませぬ。

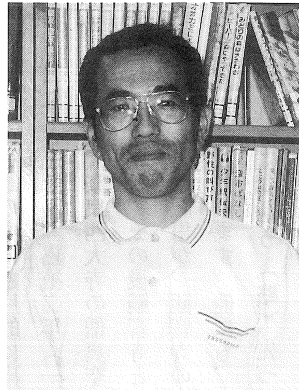
図書館を利用して下さる皆さんも、
そこで働くわたし達も、みんなそれ
ぞれに、出会えてよかったと、感謝
したくなるような本に、巡り会えま
すように...

図書館へようこそ

利用者インタビュー

第 33 回

久 郷 克 己 さん



ご家族で図書館をご利用になり、先日百四十二名の生徒さんを連れて図書館見学にいられた宇治小学校の久郷先生をお訪ねしました。



ご家族でご利用いただいているようですが。



特に高二の娘が本好きで調べものや読みたい本をリクエストして利用させてもらっています。図書館の方が大変親切でありがたく思います。



そんな風に使っていただけるとうれいす。先日の三年生の感想はいかがでしたか。



本がたくさんあってきれいで静かだと言っていました。また大勢で行ったのにコンピュータ処理の貸出がスムーズでびっくりしたという子どもたちも多かったです。



これから総合学習という時間も始まりますが地域での図書館のこれからの役割に期待されるものは何ですか。



難しい質問ですね……。図書館というのは個人で行けて存在そのものは自由なはずなのに重い感じがするんです。テレビ、ファミコン、まんがに飛びつく子どもたちとのニーズがあつていないのでしょうか。例えばですがPTA活動のなどに図書館の出張サービスなんかあったらより身近に感じられてうれいすね。



それは、おもしろい発想ですね。



総合学習において自分たちで調べるといふ子どもたちの意志によりその本の調べ方や考え方を一緒に支えていただくとうれいすね。本というものになじみのない子ども達にとつての本との出あいは、それが字のない絵本でもまがでもスタートはいろいろあつていいと思うのです。



そうですね。最後に図書館へのご要望はありますか。

本の紹介

イワシ雲、サバ雲、ヒツジ雲……美しい色々な雲が織り成す秋の空は、まるで芸術家です。でも、そんな爽やかな秋空と打って変わって、時として、梅雨時のような停滞前線に出会うのも秋の特徴です。ところで、どんな「秋の雨」をご存じですか。
秋微雨、秋さづい、秋雨、秋時雨、秋湿り、秋微雨、通草腐らし、御山洗、霧時雨、黄雀雨、洒涙雨、洗鉢雨、鍋割、猫毛雨、御精露雨……
これらは、雨の名が四二二語も



もう少し遅くまで開館していただければ余裕がもてますね。



そのようなご要望もふえてきています。いろいろ盛りだくさんでありがとうございました。



紹介してある『雨の名前』（小学館刊）より引用しました。

この本は、詩人高橋順子が、数多くの辞典、事典から「雨の名前」だけを引っ張り出し、エッセイと、雨の詩を紹介したもので、佐藤秀明による一四八点の雨百景も情緒があります。

秋の雨に

しをれて落つる桐の葉は

音するしもぞ寂しかりける

西園寺実衡女

物思いにふける秋。雨もいいもんです。

郷土のはなし

木幡観音寺

木幡南山に観音寺川という細流があります。この川の上流部には、観音寺池・観音寺新池がかつてあり、この池の東方に観音寺という寺があったと伝えられています。

観音寺は、藤原鎌足の子定恵が開創した、とされていますが、定かではありません。また、観音寺に関する資料は乏しく、古記録の中に断片的に出てくるにすぎません。嘉禎二年(一二三六)の頃、奈良西大寺の僧真空が観音院を建立し、その後観音寺と改称されたという記事が、観音寺の初見史料とされています。他にも、「今日観音寺に向かう(略)先づ浄妙寺に至り(略)其後観音寺に向う」や永和元年(一二三五)に木幡観音寺長老の使僧が、近衛道嗣を訪問した記事、ある事、あるいは江戸

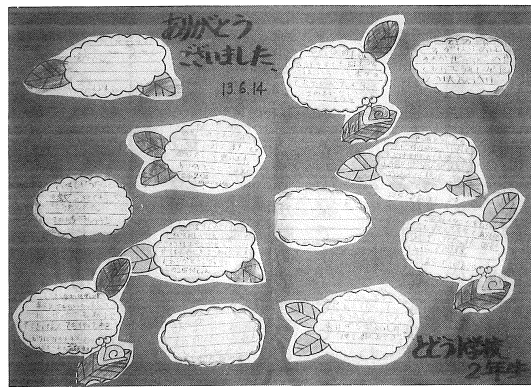


観音寺川

時代の地誌に「浄妙寺旧地より南八町許木幡村巽に当る、観音寺と呼ぶ所有り」と寺跡を示す資料もあります。これらの資料から、公家である近衛家と九条家と関わり深い寺であり、旧仏教系の寺であったことが推測できます。

ところで、観音寺は中世末の戦乱期に廃寺になるようですが、この観音寺にまつわる伝承が残されています。木幡西中に願行寺という寺がありますが、当初は観音寺と呼ばれたと伝えられています。寺伝によれば、焼失したのち、鎌倉時代に慈心が再興し、寺名も尊勝寺と改め、専修念仏を広める拠点にしました。応仁年中に焼失後、文明二年(一四七〇)に深誉が再興し、寺名を尊勝山願行寺に改めたとされています。尊勝寺があったと思われるJR木幡駅東方にある藪を、観音寺藪と呼ばれていたのも、何かゆかりがあるのかもしれないと。また小字南山の西南部に「カンドウ山」と呼ばれる場所があり、そこは焼亡した観音堂が再興された所と伝えられています。「カンドウ山」とは、観音堂山が訛ったものである、と言われています。

鎌倉時代から室町時代にあった観音寺は、正式な寺名や宗派・規模・位置・寺史など何もわからず、謎にまつまれました。ただ、小さな川の名前だけが、寺の存在を今に伝えていきます。



「図書館見学に来た、菟道小学校の2年生の子どもたちからいただきました。」

利用案内

- ・市内に在住、または市内に通勤・通学されている方なら、一人10冊3週間(そよかぜ号は約1ヵ月)本が借りられます。貸出券は全館共通です。
- ・図書館は9時から17時まで開館しています。休館日は毎週月曜日、第4木曜日、祝日、年末年始です。

あ と が き

モーレッツに暑かった夏は終わり、やっと暦は秋となりました。「食欲の秋」「スポーツの秋」「もの想う秋」、色々な秋がありますが、『としょかん宇治』を読んでも下さっている皆さんには、何といってもやっぱり「読書の秋」ですよ。とは言うものの、まだまだ残暑は厳しいです。どうぞ、ご自愛下さい。

